

禅の里新聞

令和7年10月6日
輪島市立門前中学校
3年生一同

門前町と門前中学校って!?

輪島市門前町は石川県の北西部に位置する町で、海・山・川などの豊かな自然と總持寺祖院を有する文化的な町である。

門前町は、かつては鳳至郡門前町として独立した町だった。2006年(平成18年)に輪島市と合併し、現在の「輪島市門前町」となった。今、私たちが学んでいる門前中学校は、1964年(昭和39年)に5つの中学校が統合して創立された。2001年(平成13年)に、町の中央に位置する門前中学校、北部に位置する七浦(しつら)中学校、南部に位置する剣地(つるぎぢ)中学校が合併して現在の門前中学校となった。中学校の卒業式では、「雪割草」が卒業生に贈られることが伝統となっていて、雪割草は絶滅危惧種の高山植物で門前町の七浦地区に自生している。また、地元の門前高等学校とは、2001年から連携型の中高一貫教育校として、教育活動全般において連携している。



門前町の位置(☆)—地理院地図より

そ う じ じ そ い ん 總持寺祖院

門前町復興の希望の光

38億円の被害

内側から見る姿

昨年、元旦の能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市門前町。地域のシンボルである總持寺の被害や門前町民の思いを全国の人に知ってもらおうと輪島市立門前中では「復興新聞」を作ることにした。そのため生徒33人は4月28日に總持寺を訪れ、被害の現状を調べた。その結果、多くの建物が甚大な被害を受けたことが分かった。

「地震直後は、もうだめかもしれないと思った」

私たちのインタビューを受け、悲しみに浸りながら監院補佐の副監院の高島弘成さん(51)は、地震発生当時の様子を振り返った。能登半島地震で、

總持寺祖院は甚大な被害を受けた。曹洞宗の總持寺祖院は、国の登録有形文化財に指定されている17の建物が全て被災し、全壊や半壊状態となった。正面に立つ山門に続く回廊は、全体にわたって基礎部分から大きく倒壊し、原型をとどめていない。回廊や浄水舎がある建物の多くが被害に見舞われた。總持寺



傾いたままの回廊

は今年5月27日から危険箇所をコーンを設置するなどして拝観受付を再開したが、壊れている箇所が数か所あり、全てを見ることはできない。一番被害が大きかったのは回廊である。当時、一箇所が下がったことで回廊全体が崩落した。その際、崩落に巻き込まれ、怪我を負った人もいた。他にも仏殿の柱が地震の揺れで外れたり、庭の句碑が180度回転したりした。

被害の大きい建物が多く、山門だけでも2007年に起きた大規模地震の時に耐震工事のおかげで瓦が一枚も落ちなかった。高島さんは、「参拝に来た人に『主要な建物は残っているからまだ大丈夫だよ』と言われ、気持ちが前向きになった」と語った。



右:倒壊した手水屋



左:總持寺入り口の三松閣

總持寺の修復にかかる総事業費は38億円を超える見通しが立ち、工事は2034年春に完了する見込みである。段階的な修復の計画なので時間と費用がかかるそうだ。

(下浦良太・升本晴馬
松本弥大・横道悠輔)

門前町は、かつては鳳至郡門前町として独立した町だった。2006年(平成18年)に輪島市と合併し、現在の「輪島市門前町」となった。今、私たちが学んでいる門前中学校は、1964年(昭和39年)に5つの中学校が統合して創立された。2001年(平成13年)に、町の中央に位置する門前中学校、北部に位置する七浦(しつら)中学校、南部に位置する剣地(つるぎぢ)中学校が合併して現在の門前中学校となった。中学校の卒業式では、「雪割草」が卒業生に贈られることが伝統となっていて、雪割草は絶滅危惧種の高山植物で門前町の七浦地区に自生している。また、地元の門前高等学校とは、2001年から連携型の中高一貫教育校として、教育活動全般において連携している。

【観光スポット】

總持寺祖院のほか、歴史資料館である「櫛比の庄禅の里交流館」や、美しい海岸線が楽しめる。中でも琴ヶ浜海岸は、歩くと音がする「鳴き砂の浜」として有名である。

【復興への思い】

地元の人々は、「今の門前町を知ってほしい」と情報発信を続けており、訪れることが復興の励みになると呼びかけている。門前町は、歴史と文化を大切にしながら、復興に向けて力強く歩みを進めているところである。

總持寺祖院 700年の歴史

大半を焼き尽くした大火を乗り越えて

石川県輪島市門前町にある總持寺は、2021年に開山700年を迎えた寺で、石川県の歴史に大きく関わっている寺院だ。地域の人々に愛されてきたが、2024年1月に起きた能登半島地震では、甚大な被害を受けた。そんな總持寺と門前町のつながりや歴史についてまとめた。

石川県北西部にある輪島市門前町には町のシンボルとなる總持寺祖院があり、大きな寺のそばにあることから門前町と呼ばれるようになった。

では門前町になぜ總持寺が開山する流れになったのか。總持寺を開山した人物は曹洞宗の僧侶瑩山（けいざん）禅師であり、主に石川県能登地方を中心に布教活動を行った。その後、大火により寺を焼失したが、北陸を中心に統治を行っていた加賀藩前田氏（※1）によって復興し

た。江戸時代（1615）には、江戸幕府初代將軍の徳川家康より本山（※2）と認められ、幕府祈願所にも指定され幕府からも重宝される存在となった。だが1898年（明治31年）に法堂付近から出火する「總持寺大火」が発生し總持寺の大半を消失した。1

905年（明治44年）に再建は果たしたものの、總持寺が神奈川県横浜市に移転する計画が進み、門前町民の多くが反対の意思を示したにもかかわらず、總持寺は横浜へ移転した。能登總持寺はもともとの寺院であることを示す「總持寺祖院」となった。

●1321	瑩山禅師によって開創（諸嶽山總持寺）
●1700	戦乱の中で消失するも、前田氏のもとで再建
●1898.4.13	災禍により總持寺の大半を消失
●1905	總持寺再建
●1911	總持寺が鶴見へ移転
●1921	開創600年に向け大祖堂の再建
●2007.3.25	能登半島地震により、境内の建物30棟すべてが被害を受ける
●2021	改修工事が行われ、開創700年の式典が行われる
●2024.1.1	能登半島地震により、国の登録有形文化財17棟を含む建物が被害を受ける

總持寺祖院の主な出来事（1321～2024）

色：總持寺祖院への被害が大きいもの

2007年には、能登半島地震が発生し境内すべての建物が甚大な被害を受けたが、2021年に完全復興を果たした。開山700年を記念するセレモニーでは山門がプロジェクトで鮮やかに彩られ、町中の人々が、復興を喜んでいたところであった。

※1「加賀藩前田氏」北陸地方を統治していた江戸時代の藩。加賀百万石と言われ外様大名の中で一番多い領土を統治していた

※2「本山」曹洞宗を管轄している大きな寺（坂口光輝・中田颯汰）

② 被害の少ない山門



總持寺祖院
おすすめスポット

① 句碑から
わかる地震
の悲惨さ

能登半島地震により句碑が180度回転した。この句碑から地震が横揺れでも縦揺れでもなく、回転しているような揺れだったことがわかる。山門を通じて左側にある。

② 地震を
耐えた山門

昨年おこった震度7の能登半島地震で總持寺の半分以上が半壊した。しかしその中で唯一山門が倒壊を免れた。今回の地震でも瓦一つ落ちなかったという話を聞き、山門の頑丈さを感じられた。素晴らしい山門を見にきてほしい。

③ 總持寺の
歴史を知って
いる扉

大祖堂の大きな扉は、明治の大火を免れた扉で全長約3メートルもある。なぜ大火を免れたかというと、門前町の人たちが協力して運び出したからだ。そんな門前町民の愛が詰まった扉である。



① 180度回転した句碑



③ 大祖堂の菊の扉

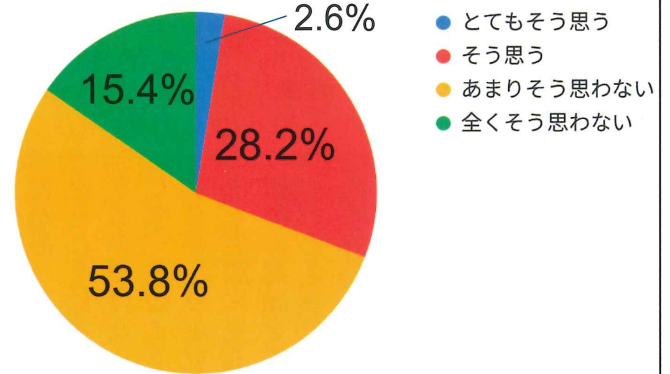
町民、總持寺祖院へ思いを寄せる

町民の方に取材・アンケートをする。とで、復興の度合いにそれぞれ違う思いを抱いていることがわかった。ただ、どの町民も總持寺や町の復興を望み、今の状態を能登以外の人にも知ってほしいと願っていた。取材を通して聞いた町民の思いを紹介する。

門前中3年生3人は町民の思い・願いを知るために7月から、總持寺通りの商店街のお店や、小中学校にQRコードを配り總持寺についてのアンケートを行った。39人から回答があった。今現在の門前町の復興は進んでいるのかという質問では、半数以上が「あまりそう思わない」を回答し、今後の總持寺に対しての願いを書く自由記述では、「地震以前のようになら、みんなが集まる場所になってほしい」や「昔のように活気のある總持寺に戻ってほしい」という回答が見られた。復興新聞で伝えてほしいことを書く自由記述では「地元の人々は何度も災害にあっており、その度に協力し合って立ち上がっている。その頑張りと、前に向かって進んでいる姿がある。この皆さんの復興にかける思いも合わせて伝えてほしい」という回答があった。

そこで総合学習の時間を使って、直接町民にインタビューを実施した。最初に總持寺通り商店街で営業している「食事処縁」の店主、安田俊英さんと妻真奈美さんに話を伺った。俊英さん、真奈美さんにとつての總持寺は「あって当たり前のような建物で生活の一部、門前町のシンボルだ」と答えた。今後の總持寺に期待していることについて聞いたところ、俊英さんは「復興することによって前よりも良いものができるかもしれないが便利にはならないでほしい。不便なところが修行の場所だから。昔ながらの伝統を大切に復興してほしい。」、真奈美さんは「雰囲気を生かしつつ、修理で現代風にして以前よりすばらしくなってほしい。」と話した。次に安田さんと同じ

現在の門前町は復興していると思いますか？



昔ながらを大切に復興を



縁の店主・安田俊英さん（右奥）と妻真奈美さん

「食事処縁」の店主、安田俊英さんと妻真奈美さんに話を伺った。俊英さん、真奈美さんにとつての總持寺は「あって当たり前のような建物で生活の一部、門前町のシンボルだ」と答えた。今

後の總持寺に期待していることについて聞いたところ、俊英さんは「復興することによって前よりも良いものができるかもしれないが便利にはならないでほしい。不便なところが修行の場所だから。昔ながらの伝統を大切に復興してほしい。」、真奈美さんは「雰囲気を生かしつつ、修理で現代風にして以前よりすばらしくなってほしい。」と話した。次に安田さんと同じ

く、總持寺通り商店街で営業している「焼肉たまちゃん」の店主、玉岡彰人さんにお話を伺った。玉岡さんにとつての總持寺とは身近にあった場所。門前高校出身であり、「いち早く復興してほしい。門前住民にとつては心のよりどころ。復興してまた町の顔になってくれるのを期待している。そして、この能登半島地震のことを忘れないでほしい」と述べた。

材から、門前町の人々は地震前の姿になってほしいという願いは同じだが、どう復興するか、その度合いに関しては違う思いを抱いていることが分かった。また、実際に門前町を訪れてほしいという思いをたくさんの方が持っている。ぜひ、この復興新聞を読んだ人には門前町へ訪れ、町のものや人に触れてほしい。

（竹中柚葵・森果実 山崎結生）

能登のことを忘れないで



焼肉たまちゃんの店主・玉岡彰人さん（左奥）

門前町・總持寺祖院の今後は？

總持寺と門前町の今後について調べるために總持寺と總持寺通り商店街の方々にインタビューをした。

長年にわたり門前町で洋服店を営んでいた下口真理さんにインタビューをした。下口さんにとつての總持寺は、「門前町になく

はならない場所であり、門前町を象徴する場所」と答え、今後の總持寺に期待すること

は、「もとの總持寺に戻ってほしい」と答えた。



總持寺祖院に対する思いを語る宮下杏里さん



總持寺祖院の僧侶、三浦信了さん

宮下杏里さんにとつての總持寺は、「特別でもあり、日常に染まっているもの」と言う。また、「修行僧がもどってきて、修行僧が歩く門前町になってほしい」と總持寺に対する期待を語った。震災前までは全国から集まった修行僧が町の日常の風景にとけこんでいた。冬場、托鉢でまわる姿は、門前町の冬の風物詩でもあった。町の人々とも交流がある存在であった。今は寂しい限りである。

總持寺の僧侶の三浦信了さんと總持寺に関わっている宮下敏茂さ

んは、「門前町と總持寺がもとに戻り、協力し合えるようになりたい」と答えた。

總持寺は石川県の復興基金や、募金、クラウドファンディングの資金などを利用し、復旧を進めている。現在は、県内外の学生などが總持寺を訪れ、見学を通して防災学習を行うなど、教育現場としても利用されている。

町には、地震の被害の痕跡がいまだに残っている。どのような被害があったのか、今だからこそ見ることができるとはないか。そして、どのような備えが必要なのかを町の様子を實際に見ることで防災の意識を深めることができる。ぜひ、門前町を訪れてほしい。今後、地震から門前町・總持寺がどのように復旧・復興していくのかを見守り続けていきたい。

(倉澤梨紗・杉本和音)

捨てられるものに新たな命を ～私たちにできることを少しずつ～

總持寺祖院の法要などで使われる和ろうそくは1度使用されるとそのまま廃棄されてしまう。その廃棄ろうそくを再利用するため、門前中学校ではキャンドルを作成し始めた。そして、そのキャンドルで門前町の復興を願い、石川テラスで配布を行う。



昨年度行われた中・高連携のキャンドル講習会

總持寺祖院では、震災前には毎日のように法要が行われていた。そこで使用される和ろうそくは、法要後には廃棄されている。その廃棄されるろうそくを門前高校の生徒が町おこしの一環に使えないかと、昨年度キャンドルづくりを行っていた。門前中学校でも何か地域のためにできないかと考え、昨年度末に中・高連携の一環と

して、高校生からキャンドルづくりを教えていただいた。そして、今年度は、修学旅行で總持寺をPRしようとして、門前中学校でキャンドルづくりをすることに決めた。生徒会が總持寺に赴き、廃棄される和ろうそく(白・朱色)をいただいた。作成するにあたって、金沢市出身のハンドメイド作家・アカネイロスマイルさんに講師をしていただいた。和ろうそくからキャンドルを作成する工程は、たくさんの手順を踏んでい

る。色付けでは、顔料の調整が難しく、うまく色が出ないことがあった。試作品を何度も作成し、色合いや形、燃え方などを考え、より良いキャンドルを作成した。9月14日に仮設商店街で開催された「門前マルシェ」で、作成したキャンドルのお披露目を行い、およそ百個のキャンドルを配布することができた。

今回の修学旅行では約百個を配布する予定



完成したキャンドル

である。このキャンドルで少しでも門前町と總持寺祖院のことを知ってもらい、復興について考える人が増えていくこと、門前町復興の一部になっていくことを願っている。

**門前中学校にメッセージを
お願ひします!**

ふるさと門前の復興を目指して活動に取り組んでいます。いただいたメッセージは、總持寺祖院や門前町民へ届けます。元気の出る応援メッセージをよろしくお願ひします。





3月8日、門前中から届いた總持寺祖院の廃棄和ろうそくを加工したハート型の赤いキャンドルを手にする
「いわぬま震災語り部の会」会長の渡邊良子さん

キャンドルに込めた思い

地震発災以来、私たちは自分たちができることを考えてきました。地域の人たちを元気にしたい、これまで受けてきた支援への感謝の気持ちを表したい、という思いをこのハートの形に込めました。

また、仏教では「猪目（いのめ）」というハートを逆にした「厄除け」の模様があります。總持寺で祈りに使用されたろうそくが新しく生まれ変わり、みなさんを守ってくれることを願って作成しました。

キャンドルができるまで・・・

このキャンドルは、總持寺祖院で廃棄される予定であった和ろうそくを再利用し、作成しています。

- ① 和ろうそくの表面に汚れをとる。
- ② 和ろうそくを溶かす
- ③ 溶かした和ろうそくをこして、バットに入れて固める。
(キャンドルのもとになるきれいなろうができる)
- ④ きれいなロウを再び溶かし、顔料を溶かして色を付ける。
- ⑤ 色のついたロウを型に流し込み、かためる。
- ⑥ 固まったロウに後ろから穴をあけ、芯を通す。
- ⑦ 溶けたロウに⑥をつけて、穴を埋める。
- ⑧ すべてが固まるとキャンドルが完成！！

